

ある。すぐれた人は苦しむ事なくて大事を果たす。  
世の人この秘密を解したらば、その生涯の幸福が  
いかにかりだるう」といはれたのが、何だか深く  
身に染みていまでも記憶して居ます。

子供が眞似をすることは大切な事である。言語も初めは眞似  
て出来たものである。お神樂の眞似、電車の眞似、まゝ事、  
等數へ来れば摸擬と子供とは大變な關係がある。従つて子供  
には劇的の遊びが中々に多い。然るに今日まだお伽芝居に  
する研究が少ないのは遺憾である。

貞一の日記

(承前) (明治三十六年)  
(五月生男兒)

その母

二月廿二日 家の人ばかりの時は、何でも唱へど  
他の人が来りて、何か歌へといふも、中々歌は  
ぬに、今日は、林ふみ子さん、來訪せられし時、  
御馬の歌や、荒城の月などを、幾度も唱ひたり、  
安田さんが、貞チャンの足袋片方頂戴といへば  
わげると乏食になるといふ  
朝、牛乳一〇〇瓦、飯一椀、味噌汁少量  
晝、飯三椀、いなだ、(煮魚) いそべせんべい  
二枚おやつ、牛乳二〇〇瓦、カステラ  
夕、飯二椀 生鶏卵一個 いそべ二枚  
便通なし、  
二月廿四日 朝九時頃強震あり、ピアノの上の獅  
子落ち來りしに驚きて泣き出す。

二月廿五日 昨夜床に入りし頃手少し暖き様覺えしが、今朝に至りて咳少し出づ、便通一回

二月廿六日 今日は晝間も咳少し出づ、但し元氣も食慾も變らず。

夕刻父母と炬燵を圍み居りし際、父戯れに母の額へ小さき紙片を粘り附けんとして、母の小さき腫物に觸れしに、母の思はず痛いと顔を溢めしを見て、貞一ワット啼き出し、左も怨めし相に父の顔を眺めつ、中々泣き止まず、兎角して機嫌を取りて泣き止みしも、容易に物言はず。父が母を打ちしとでみ思ひしならん。

二月二十七日 咳多くなれり。熱もあり、食慾減す。夕佐々木先生を迎ふ。

二月二十八日 午後四時半熱八度四分。咳多く出

づ 食慾なし、佐々木先生來診、機管支加答兒とのことなり。便通二回雨降りて氣候寒し。

三月一日 天氣は晴れしも風強し。熱は正午に八度九分に昇る。佐々木先生來診。氷袋、氷枕にて頭を、冷やし、胸は濕布をわて、其上を更に氷にて冷やす。吸入數回食慾なし。

三月二日 午前二時六度七分、午前六時、七度二分、午前八時七度五分、正午八度六分、午後五時九度二分。下痢四回

食事は、朝牛乳一〇〇瓦、晝牛乳全量にさしみ二切 シュークリーム、一個。タスプ二〇〇瓦に牛乳五〇瓦、天氣晴れしも風寒し、室内温度六十五度とす。

三月三日 朝より雪降る、午前一時六度五分 八時六度九分、十一時半六度八分、午後六時六度

九分 便通二回

食氣なし。朝牛乳一〇〇瓦但し水と等分。スー

プ少量、晝水と等分の牛乳五〇瓦にシユークリ

ーム一個。タシユークリーム半個に牛乳五〇瓦

二月四日 空晴。午前八時六度五分 晝五度七分

夕 六度五分

食事 朝粥一椀、牛乳(水と)一〇〇瓦、晝粥二

椀に刺身少量 夕粥半椀スープ及刺身少量

五日六日七日と追々快方に向ふ

三月八日 佐々木先生來診 もはや病氣は全快せ

しも尙暫らくは此温度の室(六十)に起臥し、他

室に入らせぬ様注意すべく且つ食事は平生に復

して宜しとの事なり。

三月九日 元氣大分宜し。吸入器にかけたる白布

を見て、吸入ノオコシマキといふ。何時かも自

轉車の泥除けを見て 自轉車の前掛といひしこ  
とあり。

三月十日 床上げ、但し室内にて遊ばせる。

三月十一日 今日より時々室外に出だす。裸體美

人の薄き肌着を着たるを見て「コレオペ、キカ

ヘルトコ、ジバンキテキル」などいふ。

三月十三日 昨日より上唇少し腫れ居たりしに

今日は上下とも腫れて且つ膿を持ち、爲に食事

困難にして中々氣六ヶし、近所の醫師より硼酸

水とリスリン濟とを貰ふ、熱も多少ある様子、

胃のわしくなりたる爲めかとも思はる

三月十七日 久し振りにて入浴す。

三月十八日 日曜なれば父母と午後より植物園に

行く。葉の落ちたる立木の所へ行きしに「コワ

イ コワイ」といつて中々動かす、「あれは木だ

よ」といへば、「木コワイ コワイ」といふ、抱いて其側に行けば、「キチャイケナイ バカ バカ」といつて、恐れて泣き叫ぶ。池の方より上に上り行けば、「オウチガナイ」といつたり、「キガコワイ」といつたり、杯して、中々むづかる。

三月廿一日 祭日にて天氣もよし、久し振りにて本郷の電車の所へ行く、満員にて乗れぬ時は、非常の勢にてあばれる。やつと乗り込みて上野にて降りる東電を見るや否や、「淺草電車ノリマシヨ」といふ。三宜亭の所にて始めて、乞食の親子を見る。手に持ち來りし一厘錢を乞食の子に與へしまゝ、不思議相に見て動かさず居る故「貞一は乞食の子になるのか」といへば澄まして「なる」といふ。

此頃貞一は時々家内のものに向つてお話をして

聞かせる。夫が中々妙なり、其中の電車の話といふのか次の如し。

アノネー、リヨールノク(兩國)ノデンシヤトネー  
アサクサノデンシヤトネー、ウヘノ、デンシヤ  
トネー、オチャノミヅノデンシヤトネー、ツナ  
ゲー」須磨の曲を聞き覺えて、ライデンヘキレ  
キ、チンチラシンドーシなど大分續けて歌ふ。  
三月二十四日 「貞ちやんの名は」と問へば、態と、  
母の名をいひ「母さんの名は」と問へば、又自分  
の名をいふ。そしては「貞一や」と母を呼ん  
だりする。

